

島津製作所における知財×生成AIの実装：Genzo AIがもたらす変革と実力

圧倒的な導入成果（定量実績）

 年間**8,000**万円
外部コスト削減


2025年度時点での公式発表値。主に外部委託費の削減により、明確なROIを達成。

 **50%**
発明届出業務の工数を削減

開発資料からの要約や損成業作成をAIが支援し、研究者と知財部間のやり取りを効率化。

 **90%**
他社特許スクリーニングを削減

膨大な特許権集団に対する一次判定をAIが代替することで、手作業の負担を劇的に解消。

 **2分**
OA（拒絶理由）分析レポートを約2分で生成


従来は数時間を要していた中間処理の論点整理を、AIが瞬時に実行。

Genzo AIの機能とガバナンス


6つの主要モジュール

-  発明提案書
-  翻訳
-  中間処理
-  先行文前調査
-  FTO
-  契約書レビュー
色捨的設計

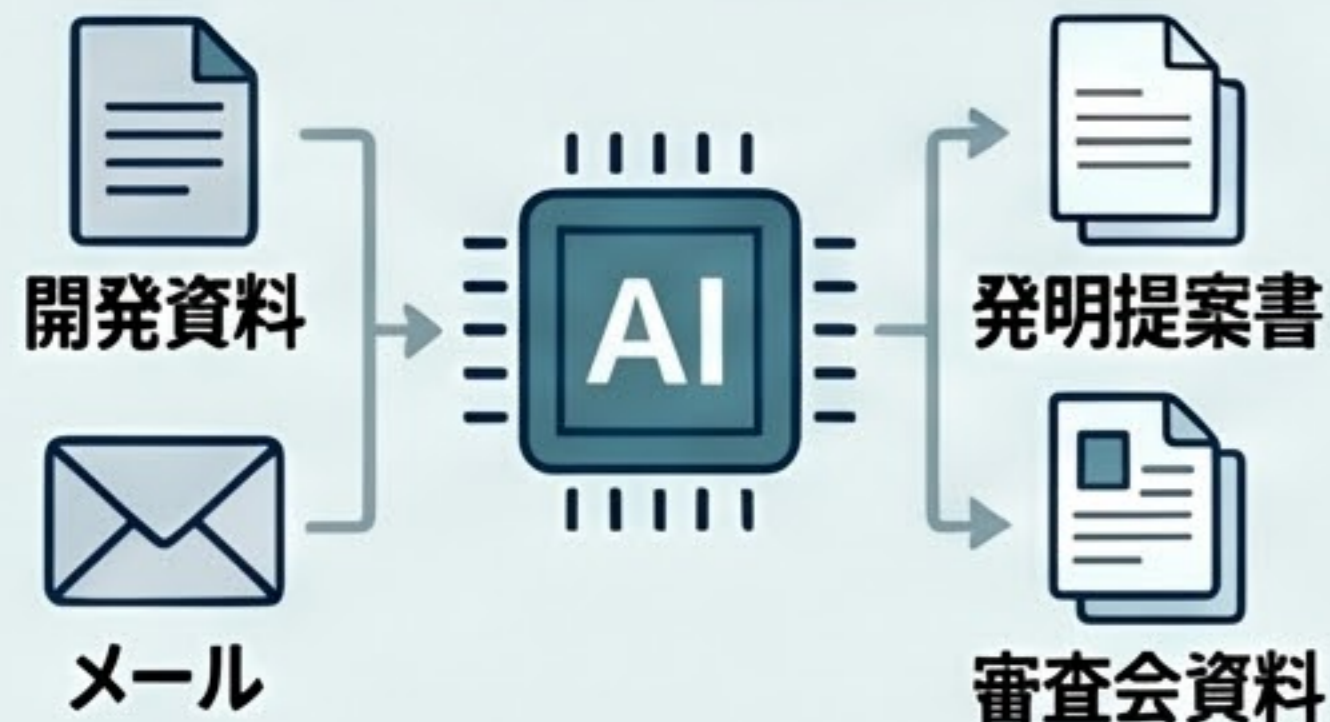
エンタープライズ基準のセキュリティ

 文書は国内AWSに保管、API経由のデータはモデル二次利用禁止。

運用上の課題とガバナンス

 FTOの倫理性防止や、AIを発明者としないうための経歴履歴保全など、厳格な統制。

情報抽出と資料生成



開発資料やメールから、課題・構成・効果もAIが抽出し、発明提案書や審査会資料を自動生成。

調査と一次判定



先行文献調査やFTOにおいて、AIがクレーム比較を行い、人間が確認すべき重点箇所を特定。

人間による確認・修正 (Human-in-the-Loop)



AIの生成物をベテランが検証・修正することで、法的リスクを管理しつつ品質を担保。

「暗黙知」をプロンプト資産へ



熟練者のロジックをプロンプトとして標準化することで、新人の立ち上がりを平準化し、組織全体の知財力を底上げ。

投資対効果（ROI）の試算例

公式外部委託費の削減により年間純便益を達成

シナリオ	年間純便益	ROI（推定）	投資回収期間
保守的（公式ベース）	6,500万円	260%	3.3か月
標準的（効率化加味）	8,000万円	267%	3.3か月
拡張的（広範囲適用）	1億円	250%	3.4か月

今後のロードマップ

